

近代伊那の2つの思想の葛藤

—下伊那郡青年会と下伊那郡国民精神作興会の活動を切り口として—



明治末期、郡長や村の有力者、校長などを役員として結成された下伊那郡青年会は、大正期に入ると自主化の声が大きくなり、自立した運営を達成し、社会主義思想もそのなかに広まっていた。これを危惧した指導者層は下伊那郡国民精神作興会を結成し、在郷軍人会とともに皇室中心主義による青年の「思想善導」を試みた。

この対立は幕末から飯田下伊那に脈々と流れる民権思想と国権思想という二つの思想の対立でもあった。互いに対立し合いながらも運命をともにする面を持っていたこの葛藤は、現代に生きる私たちにとっても考えさせられるものがある。

開催日時

令和2年 1月26日(日)

午後1時30分～3時30分

講師：松上 清志氏（本館評議員）

会場：飯田市美術博物館 講堂

定員：100人

聴講：無料 事前申込不要